

所報

## たまじむ

発行 令和元年7月1日  
 通算 第74号  
 (創刊 平成7年7月1日)  
 東京都多摩教育事務所  
 (東京都立川市錦町 4-6-3)  
 Tel 042-524-7222  
 Fax 042-528-0985

## 新学習指導要領の全面実施に向けて

東京都多摩教育事務所長

松 尾 正 純

東京都多摩教育事務所は、「知・徳・体をバランスよく育み、次世代を担う子供たちを育成する」ことを組織目標に掲げており、所報「たまじむ」は、この目標の実現のため、多摩地区の教育委員会と一層の連携を図りながら、学校教育の質の向上に資する価値のある情報を発信すべく、年3回発行しています。

今年度は、小学校が新学習指導要領全面実施までの最後の年であり、中学校は移行期2年目となることから、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を実現するために、更なる取組の充実を図っていくことが求められます。

新学習指導要領の総則には、「持続可能な社会の創り手となることが期待される児童・生徒に、(中略)どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。」と示されています。すなわち、子供たちが社会に出ても学んだことを生かせるように、「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成していくことが必要とされています。

そこで、各学校においては、これから20年、30年先の社会がどのように変化しても、子供たちが自ら課題を見付け、自ら学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現できるよう、全ての教育活動を見直し、不断に改善していくことが望まれます。

今年度も、所報「たまじむ」では、新学習指導要領の内容や教育課題を踏まえた東京都の政策等について、先生方が理解して、日々の教育活動においてできることから実践していけるように、有用な情報を発信して参ります。各学校における教育目標を実現するための方策を構築する際に、参考にしていただくことを期待しています。



## ◇ ◇ 目 次 ◇ ◇

|                                               |     |
|-----------------------------------------------|-----|
| 【巻頭言】新学習指導要領の全面実施に向けて                         | 1   |
| 【特集①】「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成するための教育活動の改善・充実 | 2～3 |
| 【特集②】ねらいに迫るための発達の段階に応じた「道徳科」の授業づくり            | 4～5 |
| 【特集③】新学習指導要領を踏まえた学習評価の円滑な実施に向けて               | 6～7 |
| 【情 報】「SOS の出し方に関する教育」～長期休業前にやっておくこと～          | 8   |

本号については、東京都多摩教育事務所のホームページからダウンロードできます。  
 ファイルの形式はPDFです。

<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

# 「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成するための教育活動の改善・充実

◆ 小学校は令和 2 年度から、中学校は令和 3 年度から新学習指導要領が全面实施されます。今回の改訂では、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化など予測が困難な時代に、学校教育を通して、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。

◆ 新学習指導要領の前文には、「これからの学校には、（中略）多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示されており、「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成するために、教科等の枠組みを超えて教育活動を改善・充実することが大切です。

◆ 本特集では、「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成するための三つの重点について提案します。

## 「持続可能な社会」とは？

持続可能な社会とは、「将来世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満たすような社会」です。具体的には、「世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境と保全と回復、天然資源の保全、公平で平和な社会など」が実現する社会です。

（「持続可能な開発のための教育（ESD）はこれからの世界の合い言葉」）

国立教育政策研究所教育課程センター 平成 27 年 3 月）

## 「持続可能な開発のための教育」とは？

今、世界には環境、貧困、人権、平等、和、開発といった様々な問題があり、これらの現代社会の課題を自ら取り組むことにより、それらの課題を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくこ

## ？

和、開発といった様々な問題があり、これらの現代社会の課題を自ら取り組むことにより、それらの課題を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくこ

（「日本ユネスコ国内委員会」文部科学省）

## 「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」とは？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

（外務省ホームページ）

## 「持続可能な社会の創り手」に必要な資質・能力を育成するための三つの重点

### ① 育成を目指す資質・能力の明確化

#### 「何ができるようになるか」

各学校は、学校教育全体及び各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」や「学習指導で重視する能力・態度（例）」を参考に設定していきます。

#### ○ 持続可能な社会づくりの構成概念（例）

| 人を取り巻く環境に関する概念 | 人の意思・行動に関する概念 |
|----------------|---------------|
| I 「多様性」        | IV 「公平性」      |
| II 「相互性」       | V 「連携性」       |
| III 「有限性」      | VI 「責任性」      |

#### ○ 持続可能な開発のための教育の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つなぐを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

「ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」  
（国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

### ② 教育活動の見直し

#### 「何を学ぶか」

各学校は、育成を目指す資質・能力を育むために教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていきます。その際、次の「3 つの改善の視点」から見直します。

#### < 3 つの改善の視点 >

##### ○ 教科等横断的な視点

育成を目指す資質・能力を育むために必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を見直したり、効果的な組み合わせを考えたりします。

##### ○ 実施状況の評価・改善の視点

学校評価と関連付けながら、育成を目指す資質・能力が育まれているかを日々の授業や研究授業などの取組から実施状況や実現状況を確認し、改善していきます。

##### ○ 外部人材や地域資源等の活用 の視点

育成を目指す資質・能力を育むために外部人材や地域資源等を計画的に活用し、教育内容と教育活動の充実を図ります。

### ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

#### 「どのように学ぶか」

各学校は、育成を目指す資質・能力を育むために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要です。

また、学習指導を進める上では「3 つのつながり」に留意するとともに、持続可能な開発のための教育の学習活動が SDGs の各目標の達成にどのように貢献しているのかを考えることが大切です。

#### < 3 つのつながり >

##### ○ 教材のつながり

教材や各教科等の内容的なつながり、教室・学校と地域・社会・国・世界との空間的なつながり、過去・現在・未来といった時間的なつながりなどを図りながら学習を進めることです。

##### ○ 人のつながり

子供同士のつながり、地域とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々とのつながりが体験できる場を用意したり、将来世代や過去世代とのつながりを想像させたりするなどの工夫をすることです。

##### ○ 育成を目指す資質・能力の つながり

学習活動を通して子供が、身に付けた資質・能力を行動に移していくことや、実生活・実社会における実践につなげていくことです。

#### SDGs（持続可能な開発目標）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための 17 の目標



（国際連合広報センター）



# ねらいに迫るための発達の段階に応じた「道徳科」の授業づくり

- ◆ 道徳科では、発達の段階に応じて、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合うことができるよう指導を工夫することを通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を着実に育むことが求められています。
- ◆ このことから、道徳科の授業においては、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することがないように特に留意し、多様な指導方法を取り入れながら、学習指導過程を構想することが大切です。
- ◆ 道徳科の授業でねらいを達成するためには、子供たちの感性や知的な興味などに訴え、子供たちが問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、子供たちの実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択したり、工夫を取り入れたりすることが必要です。
- ◆ 本特集では、ねらいに迫るための発達の段階に応じた「道徳科」の授業を構想する際の留意点を紹介します。

## I 道徳科の目標を踏まえた学習指導過程と指導方法の工夫の例

- ◆ 道徳科の指導においては、＜道徳科の目標＞を踏まえ、多様な指導方法を取り入れながら、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を着実に育む学習指導過程を設定することが大切です。

### ＜道徳科の目標＞

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※（ ）は中学校

### ＜指導方法の例＞

#### 例① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深める。

#### 例② 問題解決的な学習

問題場面について児童・生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養う。

#### 例③ 道徳的行為に関する体験的な学習

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養う。

- 道徳的諸価値についての理解を深める。
- 自己を見つめる。
- 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える。
- 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。  
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

## II 読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした学習の例

（内容項目：B 主として人との関わりに関すること「友情、信頼」 教材名：泣いた赤おに）

### ◇ 小学校 第4学年

内容項目：B（9） 友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとすること。

### 【赤おにの気持ちからねらいに迫る場合】

#### 本時のねらい

青おにの手紙を読み、涙を流す赤おにの気持ちを考えることを通して、友達と互いに理解し、信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。

| 学習指導過程（○指導上の留意点・予想される児童の発言） |                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入                         | 友達について想起する。                       | <p>あなたには、どのような友達がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつも一緒に遊ぶ仲良しの友達があります。</li> <li>・ クラスのみんなも友達だと思います。</li> </ul> <p>○ 日常の友達との関わりを想起させる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                             | 資料「泣いた赤おに」を読み、赤おにの気持ちについて考え、話し合う。 | <p>赤おには、どのような気持ちで、立て札をこわしていたと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さびしいなあ。</li> <li>・ 友達ができなくてくやしいな。</li> </ul> <p>赤おには、青おにを殴っているとき、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青おには悪いけど、殴らないと、人間と仲良くできない。</li> <li>・ これで人間と仲良くなれるかもしれない。</li> </ul> <p>青おにの残した手紙を読んで、涙を流す赤おには、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <p>○ 青おにの想いに触れた赤おにの気持ちを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青おにに悪いことをしてしまった。</li> <li>・ 自分のことしか考えていなかった。</li> <li>・ 青おにに帰って来てほしい。謝りたい。</li> </ul> <p>自分のこととして感じたり、考えたりする。</p> <p>自分の友達を思いうかべてみましょう。今、その子について、どのようなことを思いますか。</p> <p>○ 授業で考えたり感じたりしたことを振り返らせながら、これからの自己の在り方を見つめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからも、大切にしたいと思います。</li> <li>・ 仲直りをしたいと思います。</li> </ul> |
| 展 開                         | 中心的な発問                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 終 末                         | 学習を振り返る。                          | ○ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

### ◇ 中学校 第2学年

内容項目：B（8） 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

### 【青おにの気持ちからねらいに迫る場合】

#### 本時のねらい

赤おにへの手紙を書く青おにの気持ちを考えることを通して、友達の尊さについての理解を深め、友達から信頼される自分になろうとする心情を育てる。

| 学習指導過程（○指導上の留意点・予想される生徒の発言） |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入                         | 友達との関わり方について想起する。                  | <p>「友達」とは、どのような存在ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を理解してくれるかけがえのない存在</li> <li>・ 同じ目標に向かって一緒に頑張れる存在</li> </ul> <p>○ 友人関係を客観的に見つめさせる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                             | 資料「泣いた赤おに」を読み、青おにの気持ちについて話し合い、考える。 | <p>立て札をこわしている時の赤おにから事情を聞いた青おには、どのような気持ちになったと思いますか。</p> <p>○ 赤おにの想いに触れた青おにの気持ちを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤おにが、かわいそうだ。</li> <li>・ 赤おにのために、できることはないだろうか。</li> </ul> <p>ほかほかと、赤おにに殴られている時の青おには、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 痛いけど、赤おにのために、がまんしよう。</li> <li>・ もう少して、赤おにに人間の友達ができるぞ。</li> </ul> <p>赤おにへの手紙を書く青おには、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 僕がいて、迷惑になるといけないから、僕は旅に出るよ。</li> <li>・ やっと人間と仲良くなれたんだ。幸せになるんだよ。</li> </ul> <p>改めて、あなたにとっての「友達」とは、どのような存在ですか。</p> <p>○ 授業で考えたり感じたりしたことを振り返らせながら、これからの人間としての在り方を見つめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分だけの一方通行ではなく、互いのことが分かり合えているのが本当の友達だと思います。</li> </ul> |
| 展 開                         | 中心的な発問                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 終 末                         | 学習を振り返る。                           | ○ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

- 参考文献 ① 小学校及び中学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年 3 月） ② 小学校及び中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（文部科学省 平成 29 年 3 月） ③ 道徳科 指導と評価のガイドブック（東京都教職員研修センター 平成 30 年 3 月）  
④ 特別の教科 道徳 指導読本（東京都教職員研修センター 平成 28 年 3 月） ⑤ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 平成 28 年 7 月）



# 新学習指導要領を踏まえた学 習評価の円滑な実施に向けて

- ◆ 小学校は令和 2 年度から、中学校は令和 3 年度から新学習指導要領が全面实施されるとともに、学習評価についてもこれまで 4 観点（国語のみ 5 観点）であったものが、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点に変わります。
- ◆ 特に「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、学習の進め方等、自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価することになります。

- ◆ 各学校においては、学習評価が子供たちの学習改善や教師の授業改善にもつながるものにしたり、これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直したりしていく必要があります。
- ◆ そこで本特集では、新学習指導要領の下での学習評価の円滑な実施に向けて、評価の観点及びその趣旨の概要を紹介します。

## 評価の観点

## 知識・技能

各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

## 思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか

課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか

## 主体的に学習に取り組む態度

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面を評価する。

## 各教科等の評価の観点及びその趣旨の概要

### < 小 学 校 >

| 観点<br>教科等 | 知識・技能                                                                                                                                                                                  | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                         | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語        | 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。                                                                                                                                                       | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。                                                                                                      | 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。                 |
| 社会        | 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。                                                                                          | 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。                                                                                | 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。                                               |
| 算数        | ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。<br>・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。                                                                                                                     | 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。                                                           | 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。                |
| 理科        | 自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程で得られた結果を適切に記録している。                                                                                         | 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。                                                                                                            | 自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。                            |
| 生活        | 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いていくとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。                                                                                                          | 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。                                                                                                                                 | 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。                                          |
| 音楽        | ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。<br>・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。                                                                                                      | 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。                                                 | 音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。                                      |
| 図画工作      | ・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。<br>・材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。                                                                                                     | 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。                                                                       | つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。                                                           |
| 家庭        | 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。                                                                                                                              | 日常生活の中から問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                                       | 家族の一員として、生活をよりよくしよう、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。                             |
| 体育        | 各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。                                                                                          | 自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。                                                                    | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切に、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。                |
| 外国語       | ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。<br>・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。<br>・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 | ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。<br>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。                                    |
| 外国語活動     | ・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。<br>・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。<br>・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。                                                                                                 | 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。                                                                                                                                  | 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。                           |
| 特別活動      | 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。                                                   | 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を見出し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。                                                                                                      | 生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。 |

### < 中 学 校 >

| 観点<br>教科等 | 知識・技能                                                                                                                               | 思考・判断・表現                                                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                      |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語        | 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。                                                                                                    | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。                                                              | 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。                  |
| 社会        | 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。                                                                  | 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。                                                    | 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。                                            |
| 数学        | ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。<br>・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。                                               | 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。                                                            | 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。                        |
| 理科        | 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。                                           | 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。                                                                            | 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                                                 |
| 音楽        | ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。<br>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。                                            | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。                  | 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。                                   |
| 美術        | ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。<br>・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。                                                                               | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。                                                         | 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。                                                       |
| 技術分野      | 生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。                                                             | 生活や社会の中から技術に関わる問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                        | よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。                              |
| 家庭分野      | 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。                                                    | これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                              | 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。                     |
| 保健体育      | 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。      |
| 外国語       | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。<br>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。             | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。                                                      | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。                         |
| 総合的な学習の時間 | 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。                                                                    | 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。                                                                                            | 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。                                      |
| 特別活動      | 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。    | 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を見出し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。                                                                           | 生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。 |

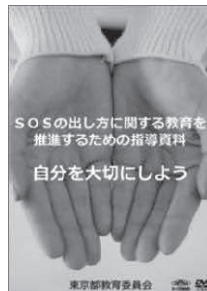
※ 総合的な学習の時間について、小学校と中学校の各観点の趣旨が同じ内容であることから、本紙面では、＜中学校＞に記載している。

※ 本紙面の内容は、多摩教育事務所のホームページ（<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>）からダウンロードすることができます。



# 「SOSの出し方に関する教育」～長期休業前にやっておくこと～

- ◆ 18 歳以下の自殺は、長期休業明け前後の時期に増加する傾向があります。
- ◆ 長期休業を迎えるに当たり、学校は、子供が大人に SOS を出すことの大切さや、友達からの相談を受けた時の対応の仕方について指導するなどして、自殺予防に取り組む必要があります。
- ◆ また、自殺予防の取組は、保護者や地域と連携を図って取り組むことも大切です。本ページでは、「SOS の出し方に関する教育」を推進するための指導資料 DVD を活用した授業における展開例と、保護者会等での展開例について紹介します。



## DVD 教材「自分を大切にしよう」の活用事例

### <授業における展開例（中等編）>

| 導 入                                                                           | 展 開                                                                                                                                                                                  | ま と め                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 本時の題材を確認する。<br>2 DVD 教材を視聴する。<br>・ 一人一人が大切な存在であることに気付く。<br>・ ストレスの概要について知る。 | 3 つらい気持ちになった時の対処の仕方を考える。<br>・ 自分ならどうするかをワークシートに記入する。<br>・ グループの中で対処方法を伝え合い、対処方法の幅を広げる。<br>4 友達がつらそうにしている時、どうするかを考える。<br>5 DVD 教材を視聴する。<br>・ 危機的状況(大きなストレス)に対応するための援助希求行動の在り方について考える。 | 6 教師やスクールカウンセラー、保健師等の話を聞く。<br>7 学習を振り返り、学習の感想を書く。<br>・ SOS を出すことの大切さを理解する。<br>・ SOS を受けた時の対応について理解する。 |

### <保護者会等における展開例>

|                                                                                      |                                                                                                          |                                                                                      |                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 「SOSの出し方に関する教育」について知る。<br>・ SOSの出し方に関する教育の目的や学校の取組を知る。<br>・ DVD教材を視聴した子供の感想や様子を知る。 | 2 DVD教材を視聴する。<br>(※「相談するとき、受け止める時等の言葉例」も参照する。)<br>・ SOSの出し方に関する子供の学びを理解する。<br>・ SOSの受け止め、傾聴等の仕方について理解する。 | 3 テーマに沿って、意見交換を行う。<br>【テーマの例】<br>・ 「子供のSOSを受け止めるために」<br>・ 「子供が悩みを打ち明けられるようにするために」 など | 4 話し合ったことを共有する。<br>5 学校、保護者の役割から、協力して「SOSを出す力」と「SOSを受け止める力」を育むことを確認する。<br>・ 子供が悩みや不安を相談しやすい環境づくりについて理解する。<br>・ 子供からSOSを受けた時の対応について理解する。 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 参考文献 ① 「SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料 活用ガイド」(平成 30 年 2 月 東京都教育委員会)  
 ② 「学校における児童生徒の自殺対策の取組 ～寄り添い、支え、命を守るために～」(平成 30 年 2 月 東京都教育委員会)  
 ③ 「全教職員で共通理解を図り、子供の生命を守る」所報たまじむ第 3 号(平成 30 年 2 月 28 日 東京都多摩教育事務所)

## <東京都多摩教育事務所指導課からのお知らせ>

### 【校内研究等への講師を派遣します】

喫緊の教育課題や校内研究等、学校や教育委員会の要望に応じて、多摩教育事務所から直接、講師を派遣しています。まず、多摩教育事務所に御連絡ください。

#### <直接訪問の流れ>

- ① 多摩教育事務所に電話し、日時、内容等を伝える。
- ② 講師依頼書及び評価票をダウンロードする(多摩教育事務所ホームページ)。
- ③ 講師依頼書をファクシミリ又は電子メールで送付する。
- ④ 訪問後、評価票をファクシミリ又は電子メールで提出する。

### 【電話相談をお受けします】

日々の授業づくりや研究授業に向けた学習指導案の作成、校内研究の推進の仕方などで困っていることはありませんか。管理職や先生方の悩みについて、教育専門員が相談をお受けします。

訪問依頼及び電話相談先  
☎042-524-7222



### 【東京都多摩教育事務所指導課職員】

| 職名    | 指導課長            | 統括指導主事        | 指導主事     |               |              |       | 併任指導主事       |          |
|-------|-----------------|---------------|----------|---------------|--------------|-------|--------------|----------|
| 氏名    | 榎並 隆博           | 大久保順子         | 田中 暁     | 齋藤 将之         | 阿部 梢         | 芳井 伸彦 | 山ノ口寿幸(顧問)    | 安部 峰(顧問) |
| 担当    | 学校経営<br>体育、保健体育 | 学校経営<br>技術・家庭 | 体育、保健体育  | 算数、数学         | 外国語活動<br>外国語 | 算数    | 外国語活動<br>外国語 | 社会       |
| 教育専門員 | 菊池 春海           | 松本 信之         | 土屋 信行    | 学校教育指導<br>専門員 |              | 富田 広  | 指導主事等の支援     |          |
|       | 生活科、社会          | 算数、数学         | 特別の教科 道徳 |               |              | 渡部 公威 |              |          |

次号  
予告

「たまじむ」第 2 号  
11 月 1 日発行予定

- 特集① 資質・能力を育成するための家庭や地域との連携・協働  
 特集② 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現  
 特集③ プログラミング教育の推進  
 情 報 多摩地区教育推進委員会の研究及び報告会について  
 ※ 内容については変更する場合がありますので、御了承ください。